

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2021/12/31	2022/1/31	2022/2/4	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	28,791.71	27,001.98	27,439.99	30,795.78	2021/9/14	16,358.19	2020/3/19
NYダウ	ドル	36,338.30	35,131.86	35,089.74	36,952.65	2022/1/5	18,213.65	2020/3/23
円/ドル	円	115.08	115.11	115.26	116.35	2022/1/4	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 米国株市場がハイテク株を中心とする買い戻しの動きにより上昇したことに連れ、上昇～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+722.65円(+2.70%)、TOPIXが+53.67ポイント(+2.86%)となり、米国株市場がハイテク株を中心とする買い戻しの動きにより上昇したことに連れ、上昇しました。業種別(東証33業種)でみると、海運業、空運業、精密機器などの30業種が上昇した一方、繊維製品、機械、パルプ・紙の3業種が下落しました。週初31日は、先々週末の米国株市場がアップルやビザの好決算を受けたハイテク株を中心とする買い戻しの動きにより主要3指数全て上昇したことや、国内海運業大手の好決算が好感されたことなどから上昇して始まりました。週中2日にかけても、米国株市場が上昇を続けたことによる買い安心感から好決算銘柄を中心に幅広い銘柄が買われ、堅調な推移が続きました。その後週末にかけては、業績見通しが失望されたことによるメタ・プラットフォームズ(旧フェイスブック)の急落や好決算を発表したアマゾン・ドット・コム(AMZN)の急伸により米国株市場が下落・上昇したことに連れた動きとなりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回	
2月7日	Mon	日本	景気一致指数	12月	92.8	
			景気先行CI指数	12月	103.2	
		中国	財新サービス業PMI(購買担当者景気指数)	1月	53.1	
		ドイツ	鉱工業生産(前月比)	12月	▲0.2%	
		国際	米独首脳会談(ワシントン)			
2月8日	Tue	日本	景気ウォッチャー調査現状	1月	56.4	
			景気ウォッチャー調査先行き	1月	49.4	
		米国	貿易収支	12月	▲802億ドル	
2月10日	Thu	日本	企業物価指数(前年比)	1月	+8.5%	
		米国	CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	1月	+5.5%	
2月11日	Fri	米国	ミシガン大学消費者信頼感指数	2月	67.2	
決算発表予定 他		国内	決算発表 : 2/7 スバル、オックス、NTT、協和キリン、ダイキンエ、ユー・エス・エス、東京センテ、ヤマハ、三菱重 2/8 AGC、ネクソン、シャープ、ソフトバンクG、日産、大成建設、JFEHD、シマノ、住友鋳、出光興産、関西パイント、バンダイナムコHD 2/9 博報堂DY、小田急電鉄、トヨタ、明治HD、INPEX、SUMCO、マツダHD、ルネサス、ホンダ、東レ、旭化成、資生堂、テルモ、富士フイルム、ホシザキ、ヤマHD、浜松村、凸版印刷 2/10 ヤマハ発、大和ハウス、三菱地所、住友不動産、いすゞ自、大日本印刷、東エレク、GMOPG、大林組、近鉄GHD、セコム、東急、鹿島、ヤクルト、大塚HD、シスメス、バンパシ、三菱HCキヤピタル、エネオス			
		海外	決算発表 : 2/8 ファイザー、リト、BP、BNPパリバ 2/9 ウーバー、ウォルト・ディズニ、グラクソ 2/10 ヘブシコ、ココ・コーラ、ツイッター、シーメンス、ソシエテ・ジェネラル、クレディ・アグリコル、クレディ・スイス、アルセロール・ミタル			

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～インフレ高進懸念が上値抑制に働くも、企業業績の改善が確認される中で底堅く推移～

今週の日本株市場は、インフレ高進懸念が上値抑制に働くも、企業業績の改善が確認される中で底堅く推移すると見えています。先週末の米雇用統計は、米国内におけるオミクロン株の感染拡大を受け悪化すると市場予想に対して堅調な結果となり、米景気の底堅さが確認されたことは好材料ですが、賃金の伸びが拡大したことはインフレ高進を意識させる結果となりました。米金融引き締め前倒しへの警戒感が残る中で、足元では原油価格(WTI)が1バレル90ドル超まで上昇していることもあり、10日の米CPIの公表を控えて積極的な買いは手控えられるとみられています。一方で今週ピークを迎える決算発表について、総じてみれば業績の改善が確認される結果となっており、今週も業績改善が確認されれば株価をサポートするとみられています。なお、新型コロナウイルスを巡り、先週東京都が緊急事態宣言の発出要請を検討する新たな基準を公表したことで行動制限強化への懸念はやや後退しましたが、感染拡大に歯止めがかからない中で引き続き感染状況には注意が必要と考えます。その他の注目材料として、日本では8日の景気ウォッチャー調査、米国では8日の貿易収支、ドイツでは7日の鉱工業生産、中国では7日の財新サービス業PMI、国際では7日の米独首脳会談などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。